



アクセス

- JR総武線「市ヶ谷駅」、徒歩約10分
- 東京メトロ「市ヶ谷駅」(有楽町線・南北線)、徒歩約10分
- 都営新宿線「市ヶ谷駅」、徒歩約10分
- 都営新宿線「曙橋駅」、徒歩約15分

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町9-13

採用ホームページ

<https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/csice.html>

内閣衛星情報センター

検索



内閣官房内閣情報調査室 内閣衛星情報センター

Cabinet Satellite Intelligence Center

採用案内 | 2024-2025

EYES IN SPACE,
SECURING FUTURE

「総理の目」として、 「日本で唯一無二の職場」で働く

情報は的確な意思決定を行うために不可欠の要素ですが、内閣衛星情報センターは、「総理の目」として衛星画像情報を収集、分析し、政府の重要施策の決定に貢献する機関です。当センターは、平成13年の設立以来、国家安全保障上の課題や自然災害への対応のため、日々、その持てる能力を遺憾なく発揮してきましたが、最近は各種メディアなどで衛星画像情報が使用されることも多くなり、その重要性、有用性について、一部の専門家のみならず一般の人々にも広く認識されるようになってきています。

当センターが有する能力は、既に世界でトップレベルにあると高い評価を博していますが、今後益々増大する画像情報に対する期待に応えていくためには、より高性能の衛星システムの開発や、画像処理や分析能力の向上などに不可欠な最先端の科学技術に関する素養を身につけた若く気概のある皆さんの力を必要としています。

宇宙というロマン溢れる空間を舞台に、国家、そして国民の安全と安心のために自らの技術力を活かすことができる「日本で唯一無二の職場」と自負する当センターで、皆さんとともに働ける日を楽しみにしています。

内閣衛星情報センター所長

納 富 中

NODOMI Mitsuru



内閣衛星情報センターの歴史とこれから

□ 衛星開発、運用、画像情報分析までを行う唯一の政府機関

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。
衛星開発から運用、画像情報分析まで行う国内唯一の政府機関として、国民の安全・安心に貢献しています。

□ 情報収集衛星の必要性

我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、また大規模な自然災害も続いています。外交・防衛等の安全保障や大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集は怠ることのできない状況です。
現在は、地球上の任意の地点を1日1回以上撮像可能な情報収集衛星4機体制を確立していますが、今後も衛星機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化していく必要があります。

□ これからの内閣衛星情報センター

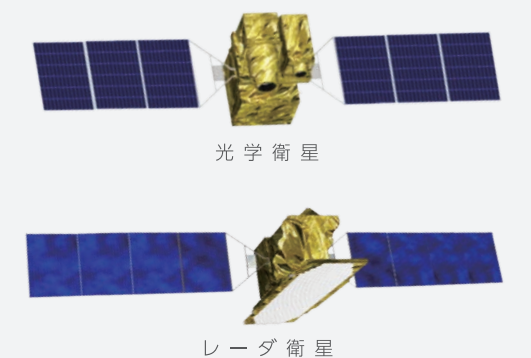
内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星8機及びデータ中継衛星2機の10機体制構築を目指しています。
10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。また、衛星との通信範囲の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな画像情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。
他方、10機体制の運用に耐えうる情報収集衛星システムの開発や運用業務の増加等、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後さらに重要になります。

□ 内閣衛星情報センターの「あゆみ」と「これから」

平成10年8月	北朝鮮が発射した弾道ミサイル「テポドン1号」が日本上空を通過
平成10年12月	情報収集衛星導入に係る閣議決定
平成13年4月	内閣衛星情報センター設立
平成15年3月	情報収集衛星初号機(光学1号機、レーダ1号機)打上げ(H-II Aロケット)
平成23年4月	内閣衛星情報センター設立10周年
平成25年4月	情報収集衛星4機体制(光学衛星2機、レーダ衛星2機)確立
平成27年9月	加工処理画像の公開開始
令和2年11月	データ中継衛星1号機打上げ
令和3年4月	内閣衛星情報センター設立20周年
令和6年1月	情報収集衛星光学8号機打上げ(H-II Aロケット)
令和6年9月	情報収集衛星レーダ8号機打上げ(H-II Aロケット)
令和8年度(予定)	情報収集衛星光学多様化1号機打上げ(H3ロケット)



情報収集衛星レーダ8号機打上げ(令和6年9月26日)



光 学 衛 星

レ ー ダ 衛 星

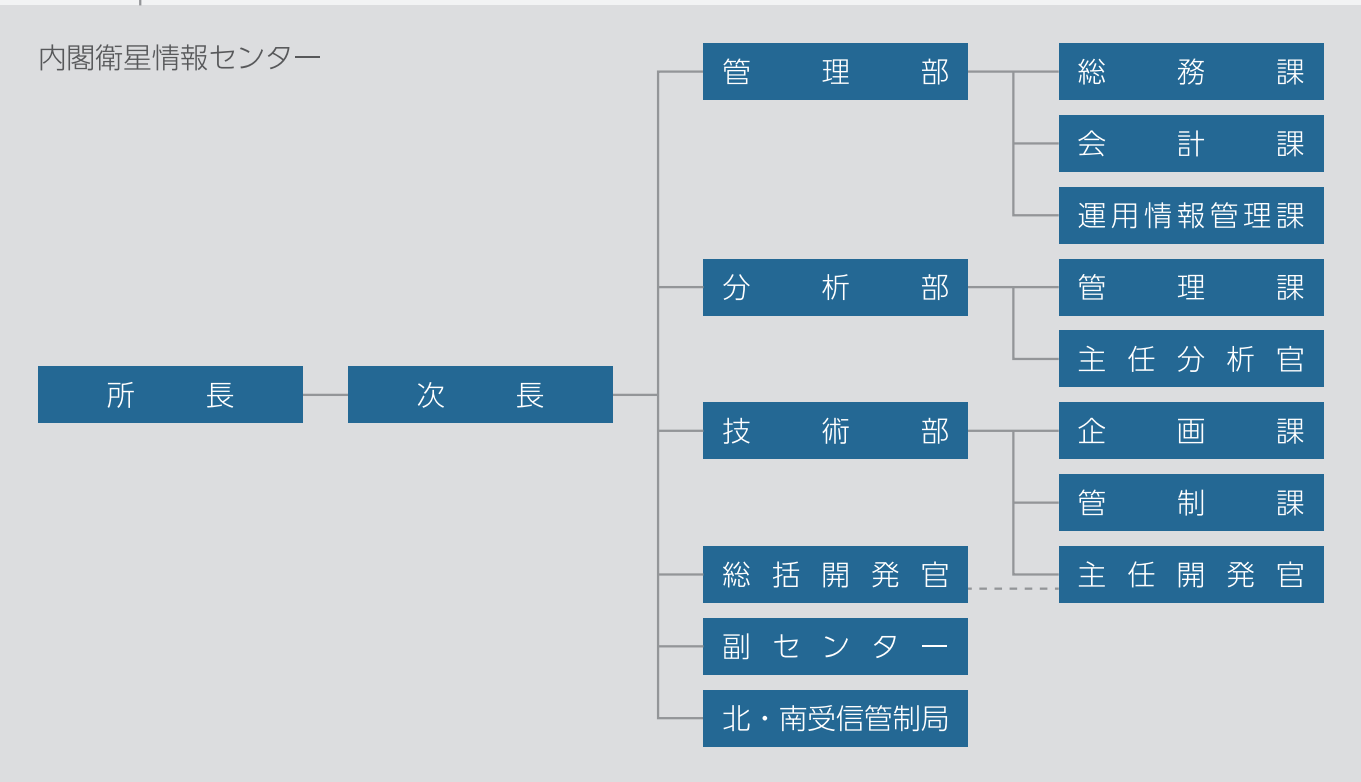
組織・拠点

内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の組織として内閣情報調査室に置かれており、我が国の安全の確保、大規模災害への対応に関する画像情報の収集・分析・情報収集衛星システムの開発・運用に関することを任務としています。

内閣情報調査室

内閣情報官

内閣衛星情報センターの組織体制



中央センター※、副センター及び北・南受信管制局のいずれかで勤務することとなります。

※ 中央センターは東京都新宿区に所在し、所長、次長、管理部、分析部、技術部及び総括開発官が置かれています。

内閣衛星情報センターの業務

管理部

総務・会計・予算・国会対応のほか、撮像計画作成までを行う。

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務です。

例えば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、日本国民に対して情報収集衛星が果たしている役割の理解を深める取組を進めたりしています。

また、内外のニーズを踏まえて、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか計画(撮像計画)を日々作成しています。

分析部

衛星画像を判読・分析し、報告書を作成する。

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務です。

安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読・分析を行い、関係機関に提供しています。また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察する等、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読・分析に関する教育や、判読・分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。

技術部

開発・打上げ・管制・管理のほか、最新の技術動向を調査する。

情報収集衛星システムの開発、情報収集衛星の打上げ、衛星及び地上システムの管制・管理が主な業務です。

開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星及び地上システムの仕様と設計を検討し、その結果をもとに関係機関や企業と調整しながら推進しています。

開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。

衛星及び地上システムは、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。また、運用中も性能の維持向上の取り組みを続けています。

副センター・受信管制局

中央センターのバックアップ機能を有し、衛星との通信を行う。

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されています。アンテナはレドームと呼ばれる外殻に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったり、アンテナ自体の維持管理(健全性確認、部品交換など)を行っています。

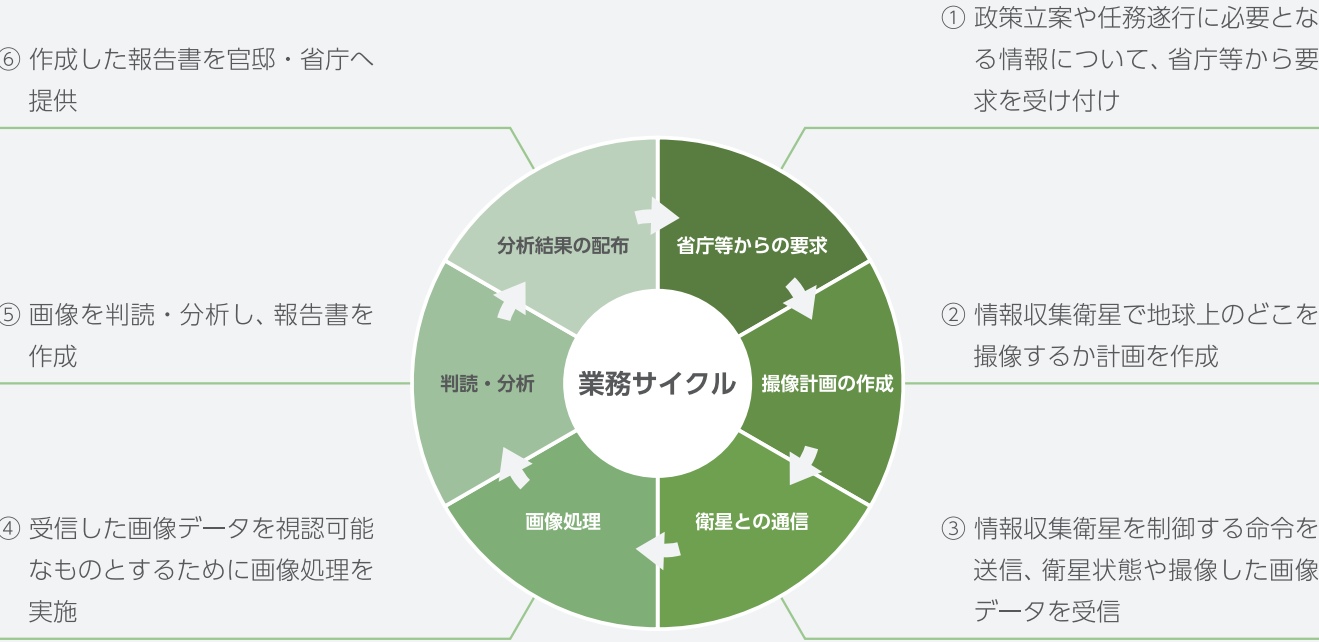
副センターは中央センターのバックアップ機能を有しているため、受信管制業務だけではなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、通常中央センターで行う業務も行うことが可能です。

また、副センターは情報収集衛星システムの開発に係わる試験施設としての役割を有しています。

内閣衛星情報センターの業務

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、図のサイクルで行います。
このサイクルは、省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配付の順に循環しています。



情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発*も独自に行っています。
情報収集衛星システムは、衛星システムと地上システムに分類されます。
情報収集衛星は衛星システムとして開発し、撮像計画の作成や衛星との通信、画像処理等を行うシステムは地上システムとして開発しています。
情報収集業務を支えるために、各省庁等を含め業務サイクルに関わる職員のニーズを踏まえた開発を的確に行い、運用しやすい情報収集衛星システムを構築することが求められます。

※ 内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、情報収集衛星システムの開発業者の選定やそれに必要な開発機関との調整、開発管理業務を指します。
衛星を実際に設計したり製作するといった専門的な業務は開発業者が行います。
開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び各種ニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。
具体的には以下の業務です。
・開発予算の作成
・最新技術の動向調査
・運用者のニーズ調査
・開発スケジュールの進捗管理



加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が発生した際には、自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年9月に公開を始めてから令和6年1月までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等9件の災害で、画像を公開しています。

霧島山(新燃岳)の火山活動(平成30年)
(鹿児島県霧島市)



令和6年能登半島地震による津波被害
(石川県珠洲市)



採用2年目職員に聞きました



Aさん(技術部)
【化学区分】



Bさん(分析部)
【物理区分】



Cさん(管理部)
【物理区分】

Q 志望動機は？

Aさん 政府の情報収集のための衛星を運用している機関が
ると知り、純粋に興味を持ったからです。
また、宇宙分野、衛星分野は今後さらなる発展が見込め
る分野であるので、その分野に携わりたいと思ったか
らです。

Bさん 衛星センターは衛星の開発から運用、データ利用まで
の一連の業務を担うIMINT(イミント：画像情報)専門
の機関であり、様々な切り口から宇宙・人工衛星とい
う分野に携わることができる点に魅力を感じ、志望し
ました。

Cさん 大学時代、衛星画像を扱う研究室に所属しており、衛星
画像の分析に興味があったため志望しました。

Dさん たまたま参加した合同説明会で業務内容に衛星が関係
していると知り興味を引かれました。
更に詳しく業務を聞いてみたところ、衛星の開発、制
御、画像処理といった業務が面白そうだと感じ志望し
ました。

Eさん 衛星に係る業務を総合的に扱うという環境と、安全保
障や自然災害に対して貢献できる点に魅力を感じたこ
とです。

Fさん 利益にとらわれず、目的のために仕事をする公務員の
ほうが自分にあっていて考えたからです。
あとは、「総理の目」という言葉に惹かれました。

Q 現在の仕事は？

Aさん 現在は技術部に所属し、運用している衛星が正しく画
像を撮像できているかを業者と共に確認するなどして、
画像の品質維持作業を行っています。また、行政機関と
して必須である、秘密保全業務や行政文書管理につい
ても担当しています。

Bさん 衛星画像の判読分析業務で使用されるシステムについ
て、現行システムの維持管理や将来のシステムの開発
に関わる仕事を担当しています。

Cさん どの衛星でどの場所を撮るかの計画(撮像計画)を立案
するシステムについて、不具合の管理や将来システム
の開発支援など、現場と開発機関等をつなぐ仕事をし
ています。

Dさん 衛星で撮像した画像の判読分析業務をより効率的に行
えるよう技術的に支援する業務を行っています。
また、業務に伴う保全業務や予算関係の業務も行って
います。

Eさん センター全体に関わる調整や契約業務のほか、研修や
行政文書管理など幅広く担当しています。

Fさん 将来の情報収集衛星システムへの搭載を前提とした技
術の開発をしています。センターは上流工程ですので
実際に研究を行うことはせず、開発機関等に委託し進
捗状況を管理します。また、現地に行って成果物を確認
することもあります。



Dさん(分析部)
【化学区分】



Eさん(管理部)
【デジタル・電気・電子区分】



Fさん(技術部)
【物理区分】

Q センターのアピールポイントは？

Aさん 衛星の開発から、撮像された画像の分析まで、幅広い業
務を遂行しているということが大きな魅力だと感じて
います。そして、自分の携わっている業務が、直接的で
あれ間接的であれ、国の情報収集衛星の運用に関連し
ていて、政府の意思決定を補助しているため、仕事にや
りがいを持てると思います。

Bさん 国家公務員(内閣事務官)でありながら、技術的な知識
や課題に接する場面も多く、日々刺激を感じながら働
くことができます。

Cさん 国の重要な衛星を扱うという唯一無二の業務を行って
いるところが一番の魅力だと思います。

Dさん 衛星の開発、運用、維持管理から撮像した画像の判読分
析まで、幅広い業務を1つの組織内でっており、これ
らを経験できる点だと思います。

Eさん 上層部との距離が近いことです。若手でも上層部に説
明する機会があるなど、業務の中で深く関わることが
できる点は他省庁ではあまりないと思います。
また衛星の打上げなど、センターならではの貴重な機
会は多くあります。

Fさん 重要な情報に接する機会や、業務で官邸に行く機会が
あるところだと思います。

Q 皆さんへのメッセージをどうぞ。

Aさん 現時点で衛星などの知識がなくても、採用後に配属さ
れる部署で必要な知識を学び、定着させていくことが
大事だと思うので、全く問題ないと思います。少しでも
センターに興味をお持ちであれば、ぜひチャレンジし
てみてください。

Bさん センターでは学生時代の専門を問わず様々な方が活躍
しています。センターに少しでも興味が湧きましたら、
気軽に説明会などに参加していただくことをおすすめ
します。

Cさん 衛星や分析業務に興味のある方はぜひチャレンジして
みてください。楽しいと思います。

Dさん 普段の生活で幅広く興味を持って情報収集してみると
自分にとって魅力的なものが見つかると思います。
学生のうちに興味があるものには、気軽に挑戦してみ
ると良いと思います。

Eさん 自分の考えを大切に就職活動に向き合うのがよいと思
います。
センターに限らず、色々な省庁の説明会に参加して自
分に合う業務を探すことが大切だと思います。

Fさん 仕事において専門分野は関係ないと感じています。特
にセンターは、職員のほかにも、他省庁等からの出向者
など、様々なバックグラウンドを持つ人がいるので、た
とえ専門分野が違ってても周囲からの理解がある職場だ
と思います。

ベテラン職員に聞きました



Xさん(分析部)
【平成13年選考採用】



Yさん(技術部)
【平成13年採用(電気・電子・情報区分)】

Q 仕事から得られた達成感とは？

Xさん 私はこれまで情報収集衛星システムの開発業務等を経験し、現在は分析業務を担当しています。衛星や地上システムの開発は、
長期間に渡り困難も多いことから、それらが無事に稼働した際の喜びは大きいものです。特に自分が関わったシステムで撮像・
処理した画像を分析できること自体、私にとっては大きな達成感がありました。しかし、その裏にはセンター内外を含め多くの
関係者の努力の結果であることも忘れてはならないと思います。

Yさん 私は、現在管制課で衛星の軌道を管理する業務を行っております。技術系職員の業務としては、衛星や地上システムの開発、衛
星運用等があり、日々やりがいを持って業務に取り組んでいますが、業務の一環として公開情報を使用した他国の衛星軌道情報
を分析する機会があり、当センターのインテリジェンスに寄与することができました。情報機関の一員として、衛星技術の知識
を使用して情報を提供できたことはとても得がたい経験でした。

Q 職員に求められる能力は？

Xさん センターは独自の衛星や地上システムを開発・運用している組織であり、宇宙開発やAI等の最新技術の調査や研究が欠かせま
せん。変化が速い現在、将来の予測は難しいですが、組織の成長のためには、限られた予算や時間の中で効率よく最新技術を導
入していく必要があります。これらは、センター内外の関係者との良好な関係の上で実現することになることから、広い意味で
のコミュニケーション能力が今後重要になってくると考えます。

Yさん 自分の担当業務について、一般的な言葉でわかりやすく説明できることが重要と考えます。
衛星運用・開発の現場は日々専門用語が飛び交う世界なので、業務をしている人同士であれば意思の疎通もうまくできるの
ですが、所長等幹部への報告や他省庁への説明をする場合、それでは理解してもらえません。
今どのような問題を抱えているのか、なぜこの技術が必要なのか、簡潔に相手に伝わるよう説明するスキルが重要となります。

高解像度衛星画像

情報収集衛星は、昼夜を問わず世界中のあらゆる場所を高い分解能で撮像できる能力を持っています。日中は光学衛星及びレーダ衛星が、夜間や天候が悪い場合はレーダ衛星が主に活躍しています。ここでは、参考として民間の高分解能衛星画像をお示ししています。

光学衛星画像
(新千歳空港)

駐機中の旅客機
(B767、B737)

©Maxar Technologies.

レーダ衛星画像
(東京都内)

皇居

東京駅

© Capella Space Corp. All Rights Reserved

キャリアステップ

内閣事務官として内閣衛星情報センターに採用後は、原則全ての部を経験するほか、本人の希望に応じて他省庁や他機関への出向など各職員が幅広い職務経験を積み重ねていきます。各職員が、自身に合ったキャリアを積み重ね、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う国内唯一の政府機関として、国民に対し貢献できる国家公務員として成長していきます。



管 理 職 へ

管理職として組織運営に貢献します

専 門 職 へ

専門家としてセンターへ貢献します

本人の希望・適性に応じ、本格的に各種業務に従事
(概ね7年目～)

- 専門性を身につけ、中堅として経験・知識を磨きます
- 専門的能力を向上させ、センターの最前線で活躍していきます

入庁後、全ての部を経験
(1～概ね6年)

- 行政官としての基礎を習得し、センター職員としての基本的能力を身につけます
- 本人の希望に応じ、他省庁、他機関への出向、在外研修等を経験することも可能です

待遇・各種制度

初任給(令和7年度※)

一般職(大卒程度試験)合格の場合
行政職(一) 1級25号俸 271,200円
(地域手当、本府省業務調整手当含む)
※法令改正等により変更される場合があります。
大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

賞与(ボーナス)

期末手当、勤勉手当として、年間4.6月分

諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当

休日

年次有給休暇 20日間
(4月採用者は、その年の12月まで15日間)
特別休暇(夏季、結婚、忌引等)

産休・育休制度

産休制度(女性職員)
産前6週間～産後8週間までの期間に取得可
「男の産休」制度(男性職員)
配偶者の出産に際し合計7日間の休暇を取得可
育休制度(全職員)
子が3歳に達する日までの期間取得可

福利厚生

共済組合制度／グループ保険制度／診療所／
定期健康診断／人間ドック(補助あり)

採用担当から皆さんへ

パンフレットを手に取っていただき、ありがとうございます！
皆さんは衛星画像を見たことがありますか？
当センターが設立された当時は、衛星画像はまだまだ一般的ではありませんでしたが、現在では毎日のように衛星画像を使った災害や紛争等のニュースを目にする機会が増えました。
「総理の目」として設立されて以来、当センターは日本独自の情報収集衛星を開発・運用し、日々画像情報を作成するなど、近年画像情報の重要性が増す中で活躍する機会が増えています。
私が当センターに就職して感じたことは、「新たな自分」に出会えるということです。管理部門、分析部門、技術部門は全く異なる分野です。異動のたびに新たな世界に踏み込むことは勇気がいりますが、逆に考えれば自分の未知の可能性を広げるチャンスでもあります。
就活中の皆さんは、正に新たな世界への準備として興味のある業種について検討されると思います。
皆さんの新たな世界として、世界トップレベルの技術を追求め、自分の成長も期待できる「内閣衛星情報センター」で「新たな自分」に出会い、未知の可能性を広げるのはいかがでしょうか？